

両教組合同

2016インクルーシブ教育学習会

毎年、岩教組と合同開催しているインクルーシブ教育学習会を、9月11日(日)にプラザおでつてを会場に、岩教組30人、高教組34人の参加で行いました。

午前は、*映画「みんなの学校」の鑑賞。午後は、日教組インクルーシブ教育部長の下坂さん(盛岡聴覚支援所所属)による情勢報告と、「インクルーシブ教育を推進するために」というテーマでのグループ討議を行いました。

小・中・高・支援学校の組合員がインクルーシブ教育をテーマにした集会は県内では少なく、貴重な意見交流の場となりました。グループ討議で出された主な意見は、以下のとおりです。

- ・インクルーシブ教育を広げるためには校長のリーダーシップが必要。
- ・様々な問題を担任一人で抱え込まずに、組織的に対応することが必要。
- ・*交流籍交流では双方の子どもたちにとっての学び合いができるよう、小中学校と支援学校の教職員の情報共有が必要である。
- ・学年が進むにつれて進路選択の難しさが大きくなっている。教育の場の選択をどこにしようとも、卒業後の進路実現に向けてのとりくみが重要である。

インクルーシブ教育の推進には様々な課題があります。学校種を超えた話し合い、情報の共有を行い、課題解決にとりくんでいきましょう。

映画

「みんなの学校」とは

2006年に開校した大阪市立大空小学校。様々な障害や家庭的な問題を抱えている子どもたちも、みんなが安心して通える地域の小学校をめざしています。ここでは特別支援学級を設置せず、みんな一緒の学級で学んでいます。

映画「みんなの学校」は、ここで繰り広げられる様々なできごとをまとめたドキュメンタリー映画です。学校単位での上映会もできます。興味のある方は、本部まで。または、「みんなの学校」で検索を。



交流籍交流 とは

特別支援学校に在籍する子どもたちが、居住する地域の小・中学校に副次的な学籍を置き、交流や共同学習を行い、地域とのかかわりを広げるとりくみ。保護者・本人の希望によって実施されます。普通学級または支援学級の授業や行事に参加するなど、実施方法は様々。まさに、合理的配慮が必要とされる場。